# 内谷春日神社
# 太々神楽の
# 舞の種類と解説

## 神招き
かんまねき

**[舞の解説]**

これからの舞に先立って、舞台を清め、神を招くためのもので、最初に舞われます。舞にストーリーはなく、このような舞を「採物舞（とりものまい）」といいます。

## 猿田彦
さるたひこ

**[登場する神・人物（使用する面）]**

猿田彦の神（猿田彦面）

**[舞の解説]**

天照大神（あまてらすおおみかみ）の命を受けて、ニニギノミコトが大和（日本）に下る時に、道案内をした猿田彦の舞です。猿田彦は天狗ともいわれ、顔面が赤く、鼻が長い勇ましい顔をしていたことから、今でも神輿渡御の先頭に立っています。

## 国　堅
くにがため

**[登場する神・人物（使用する面）]**

素戔嗚尊（すさのおのみこと）（素戔嗚尊面）

**[舞の解説]**

大和の国が平穏無事であることを念じて勇壮に国を固めていく舞です。

## 三人太刀
さんにんたち

**[舞の解説]**

太刀を持った三人による舞です。太刀は悪霊を祓い、神を依り付かせるために持ちます。曲芸のように舞うのは、東北地方に多い山伏神楽の一部が伝わったものです。

## 岩戸開
いわとびらき

**[登場する神・人物（使用する面）]**

天児屋根命（あめのこやねのみこと）（春日神面）
天太玉命（あめのふとだまのみこと）（八幡大神面）
天手力雄命（あめのたぢからおのみこと）（天手力雄命面）
天鈿女命（あめのうづめのみこと）（天鈿女面）

**[舞の解説]**

有名な神話「天岩戸」の舞です。岩屋に閉じこもった天照大神（あまてらすおおみかみ）に外に出てもらおうと、天手力雄命が力の限り岩戸を開けようとしますがかなわず、天鈿女命が岩屋の前で、神が乗り移ったように舞います。すると天照大神は気になって岩戸を少し開けると、天手力雄命はすかさず開け放ち、再びこの世は明るくなったという舞です。天鈿女命の舞が、神楽の原点ともいわれています。

# 二本扇
にほんせん

**[登場する神・人物（使用する面）]**

志那津彦命（しなつひこのかみ）（翁面）

**[舞の解説]**

長生きの神、または風の神と言われている志那津彦命が天下泰平と不老長寿を祈る優雅な舞です。

# 日本武
やまとたける

**[登場する神・人物（使用する面）]**

日本武尊（やまとたけるのみこと）（日本武尊面）

**[舞の解説]**

日本武尊が東国を平定する様子を舞にしたものです。

# 宇　賀
うが

**[登場する神・人物（使用する面）]**

白狐（白狐面）

**[舞の解説]**

白狐は豊作をかなえてくれる宇賀命（うかのみたま）の使いです。餅を籾にみたてて撒き、五穀豊穣を願うものです。

# 左　右
さゆう

**[登場する神・人物（使用する面）]**

火男（ひょっとこ面）

**[舞の解説]**

ひょっとこは零落した（落ちぶれた）神とも、庶民の代表ともいわれています。口がとがっていて、火吹き竹のようであることから、火男とも書かれます。

内谷太々神楽では、殿様より火を消してはならぬと火の番を命じられたため、口をとがらせて火を吹き、扇子を使って火を消さないようにする様子を滑稽に舞っています。

# 天地開闢
てんちかいびゃく

**[登場する神・人物（使用する面）]**

伊邪那岐命（いざなぎのみこと）春日神面

伊邪那美命（いざなみのみこと）天鈿女面

**[舞の解説]**

伊邪那岐命と伊邪那美命が高天原からくだり、大海を鉾でかき回し、したたった潮でできたオノコロジマに降り立ち、大八島(おおやしま)、つまり日本の全土を作り上げたという、国作りの舞です。日本で八は多いという意味もあります。

天地開闢、鎮悪人、大国、倭姫については、田村市大倉から指導受け、復活させた演目です。
各演目の読み方や内容、登場する神・人物等は内谷太々神楽に伝わるものとなるため、他の地域では、同じ演目でもそれぞれ異なる場合があります。

| | |
|---|---|
| **御神囃**<br>ごしんばやし | **[舞の解説]**<br>御神囃とは、元来は囃子の名称です。幣束と鈴を持ち、舞台を清めて神を呼び招く典型的な採物舞で、ストーリーはありません。 |
| **一人太刀**<br>いちにんたち | **[舞の解説]**<br>太刀を持った一人による清めのための採物舞です。 |
| **二人太刀**<br>ににんたち | **[舞の解説]**<br>太刀を持った二人による舞で、鈴は神を呼び招くために持ちます。 |
| **風　車**<br>かざくるま | **[舞の解説]**<br>「風車」とは本来囃子の名称で、いずれの舞もそうですが、これも舞台の四方を巡ることからつきました。 |
| **言　代**<br>ことしろ | **[登場する神・人物（使用する面）]**<br>言代主命（ことしろぬしのみこと）（言代面）<br>水神（みずがみ）（日本武尊面）<br>**[舞の解説]**<br>言代主命は恵比寿ともいわれ、豊漁の神ですが、福の神としても信じられています。鯛を釣り上げるユーモラスな舞です。なお、内谷太々神楽では恵比寿さまが釣りをしてはならない場所で釣りをしていたところ、水神さまが現れて怒られる場面が登場します。 |
| **白　杖**<br>しらつえ | **[舞の解説]**<br>世の中を何でも知っている久延毘古神（くえびこのかみ）が「転ばぬ先の杖」と言うように私たちを戒めた舞です。　※久延毘古神（ひょっとこ） |
| **小　弓**<br>こゆみ | **[舞の解説]**<br>弓矢で悪霊を祓う採物舞で、山々の実りを願う舞ともいわれています。 |
| **二人左右**<br>ににんさゆう | **[舞の解説]**<br>二人が扇子を持って舞う、清めのための採物舞で、ストーリーはありません。 |
| **御神楽**<br>おかぐら | **[舞の解説]**<br>御神楽（おかぐら）は、本来は囃子の名称です。悪霊を祓い、清めるための採物舞です。 |
| **鎮悪人**<br>ちんあくじん | **[登場する神・人物（使用する面）]**<br>素戔嗚尊（すさのおのみこと）（素戔嗚面）<br>**[舞の解説]**<br>素戔嗚尊は、もっとも荒ぶる神の一人で、これは鉾で悪霊を退散させる採物舞です。 |
| **大　国**<br>おおくに | **[登場する神・人物（使用する面）]**<br>大国主命（おおくにぬしのみこと）（大国主命面）<br>**[舞の解説]**<br>大国主命は素盞嗚尊の子供で、大和の国造りにたずさわりましたが、のち天照大神の使いが来て国を譲りました。出雲大社の祭神で、一般には福の神、縁結びの神として信仰されています。 |
| **倭　姫**<br>やまとひめ | **[登場する神・人物（使用する面）]**<br>倭姫（やまとひめ）（天鈿女面）<br>**[舞の解説]**<br>天照大神を伊勢に祀り、現在の伊勢神宮の基を開いた倭姫（やまとひめ）が鏡を持って舞う舞です。鏡は姿が映るために、古くから神が依り付くものとして大切にされた神祭りの用具です。 |